

登録される文化財の概要

①岡藤家住宅主屋、② 岡藤家住宅離れ、③ 岡藤家住宅茶室、 ④ 岡藤家住宅土蔵、⑤岡藤家住宅御成門及び塀

1 文化財の所在地

山口県長門市三隅中字中市

2 所有者

個人

3 年代・構造

- ① 主 屋 : 江戸中期／寛政 10 年 (1798) 頃増築／昭和 62 年改修
木造平屋建、瓦葺、建築面積 297 m²
- ② 離 れ : 大正後期
木造平屋建、瓦葺、建築面積 20 m²
- ③ 茶 室 : 昭和 30 年頃
木造平屋建、瓦葺一部銅板葺、建築面積 39 m²
- ④ 土 蔵 : 明治 21 年頃
土蔵造二階建、瓦葺、建築面積 48 m²
- ⑤ 御成門及び塀 : 江戸後期
御成門 木造、瓦葺、間口 2.0m、脇門付
塀 土塀、瓦葺、総延長 43m

4 概要

岡藤家住宅は、長門市の三隅中、三隅川と姫田川に挟まれた集落の赤間ヶ関街道沿いに位置する町家である。岡藤家は、近世初頭よりこの地に居を定めたとされ、寛延元年 (1748) からは「八幡酒造」の屋号で造り酒屋を営む。家業の傍らで、大庄屋等も務め、寛政 10 年 (1798) には仮本陣にも指定された。

間口幅広で規模の大きい主屋が街道の歴史的な景観を形成し、庄屋としての当時の生活や暮らしぶりを今に伝える建物である。

- 主屋は通りに北面して建ち、正面に下屋を付し、西寄りに戸口、東に出格子を構える。内部は西を通り土間とし、東側に二列六室を並べ、南東に座敷を張り出す。
- 離れは主屋の南に建つ。外壁は下見板張、内部は洋室の北・西面に廊下を廻し、北東隅から主屋に繋がる。洋室は南面に出窓、東面に引違窓を開き、壁と天井は白漆喰仕上げで、天井に中心飾を付す。
- 茶室は主屋の南方に建つ。北は切妻造、南は入母屋造で、北に銅板葺下屋を付し、東に腰掛待合を配す。内部は中廊下を挟み南に四畳半茶室、北に三畳間を並べ、北面に濡縁、南東に水屋を付す。茶室は西面に床を構え、掛込天井とする。
- 土蔵は敷地南側、茶室の西隣に建つ。外壁は漆喰塗仕上で水切瓦を 1 段設け、腰は縦長に目地を切る。北に戸口を設け、瓦庇を付す。内部は各階 1 室の板敷。
- 御成門は主屋の東側、通りからやや引き込み建つ腕木門で、両開板扉を建て、東側に脇門を備える。塀は土塀で、敷地東辺を区画する。



主屋（外観）



主屋（内部）



離れ（外観）



御成門（外観）



茶室（内部）



茶室（内部）



土蔵（外観）



土蔵（内部）